

T07 - ADVANCED REACTORS

【セッション全体の概要】

- ・ 一般講演 3 件（フランス、イギリス、アメリカ）があった。
- ・ フランスの Arancha Tigras（Électricité de France, EDF）から、「EPR – Flamanville 3 and Olkiluoto 3 : Chemistry challenges during commissioning phases and the beginning of operation」について講演があった。Flamanville3 号機 高温機能試験(HFT)以降の試運転及び Olkiluoto3 号機 試運転における水化学、放射化学に係る試験の概要と結果、得られた知見について報告された。
- ・ イギリスの Ruth Oakley（EDF Energy）から、「Design and Production of the Hinkley Point C Chemistry Specifications」について講演があった。Hinkley Point C における化学管理業務以外の従事する従業員が理解できるようなアクションレベルの設定に関する考え方として、アクションレベルとリスクタイプ(Safety, Environment, Contractual, Verification)の紐づけ方、中央制御室アラームとアクションレベルの紐づけ方等について報告された。
- ・ アメリカの Chuck Marks（Dominion Engineering, Inc.）から、「Water Chemistry Gap Analysis for NuScale Power SMRs against PWR Guidance」について講演があった。NuScale 社の小型炉(SMR)の水化学管理について、EPRI PWR Water Chemistry Guidelines との比較によるギャップ分析を実施し、ギャップを埋めるための方策について報告された。2 次系の水化学管理におけるギャップとして抽出された項目(酸素濃度管理、湿分分離器ドレンのサンプリング等)については軽微なものである一方で、1 次系の水化学管理ではいくつかの未解決のギャップがあり、追加検討が必要であることが報告された。

【トピックス・感想】

- ・ 本セッションでは、PWR 新設プラントに加え新型炉である小型モジュール炉(SMR)における化学管理について報告された。活発な質疑応答が行われ、出席者の当該分野への関心の高さを感じた。

【作成者氏名】 清水亮介（日立 GE）